

# 週刊 タバコの正体

日本では、大人がタバコを吸う姿は頻繁に目にしますが、子供がタバコを吸う姿を見ることはありません。しかし、写真のようにインドネシアではタバコの規制がゆるく、10歳未満の子供でも喫煙経験者は少なくないそうです。

タバコが、どれほど有害で危険なものなのかを知っている君たちから見れば、信じられない光景だと思います。そして、こんな頃からニコチン依存症となって、将来にわたってタバコを吸い続けるかもしれないこの子が、とてもとてもかわいそうです。



私たちの常識では、こんな子供にタバコを吸わせてしまうことはありません。しかし、タバコの事を正しく知らない人達ばかりが暮らしている地域では、何も知らない未熟な子供にタバコを与えてしまう事が重大な事だと感じないのでしょうか。

ところで、「タバコの事を正しく知らない」という状況は、「知らされていない」からなのです。じつは今から半世紀前の日本も、ほとんどの人がタバコの有害性や危険性を知らされていないなかったので、成人男性の喫煙率は80%を超えていたのです。もし日本に「未成年者喫煙禁止法」という法律がなかったら、インドネシアのような事態になっていたかもしれません。

さて、遠い外国から身近なところに視点を移してください。さすがに小学生が喫煙する姿は見ませんが、もしかすると君たちが育ってきた中学校時代や現在も含めて、13歳～18歳ごろの少年少女がタバコを吸う姿を目にしてきたかもしれません。その姿は写真の少年とどれほどの違いがあるのでしょうか。

タバコがどれほど有害で危険なのか。そして一旦ニコチン依存症になってしまうと、どれだけの時間とお金と健康を犠牲にしなくてならなくなるのか。そんな目で彼ら彼女たちを見ると、写真の少年と同じように、とてもとてもかわいそうです。

ニコチン依存症になってしまった彼ら彼女たちは、タバコの事を正しく知っていたのか。そして、そのまわり人達もタバコの正しい知識を持っていたのか。もし、知らないまま、知らされないままタバコに手を付けてしまったのなら本当に不幸です。きちんと教えてもらっていれば吸わずに済んだかも知れないのですから。

そう思うと正しいタバコの知識を持っている皆さんには、くれぐれも、こんな不幸なケースを減らすための行動や振る舞いをしてくれる事を願わずにはられません。

産業デザイン科 奥田 恭久